

老醜ではなく “老秀”をさらす

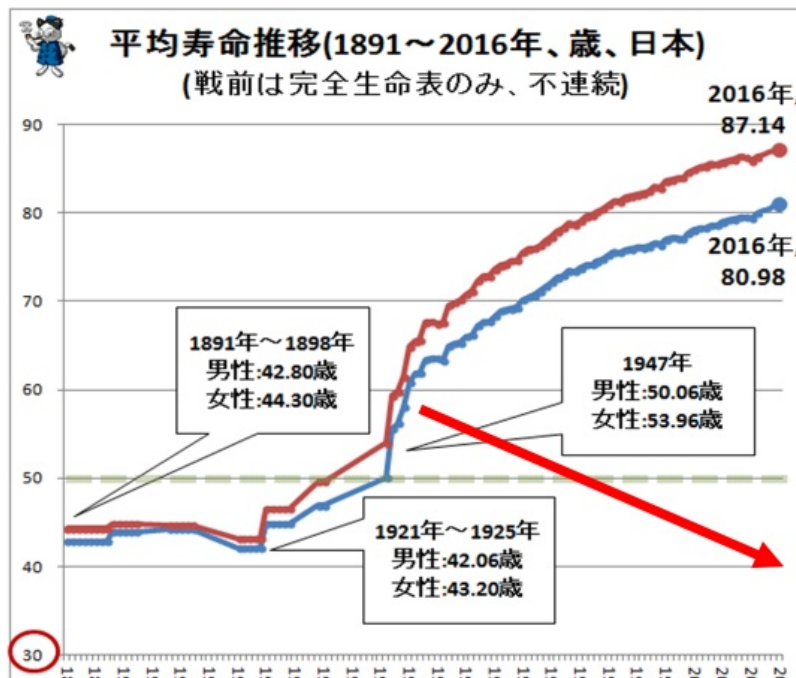


5月21日、長崎市から依頼された講演を行ってまいりました。

題して「**老秀をさらす生き方**」。

正しくは「老醜をさらす」という語句で、老いの醜さを表に出して生きている高齢者のことですが、これは顔にシミができた、腰が曲がってきた、髪が薄くなった・・・といった「見た目」ではなく、「行い」が醜いという意味です。

この図を見てください。



便利性
快適性

精神性

120年前(明治の初め)の平均寿命は男42歳 女44歳。
70年前の終戦後(昭和20年)は男50歳 女53歳。
そして平成の今、男80歳 女87歳。戦後から30歳も寿命が延びたのです。

これは人類史上初体験の現象なのです！

昔は「認知症」「寝たきり」「高齢者うつ」になる前に、死んでいた。

衣食住が便利に快適になり、医療や介護の発展で平均寿命が上昇していることは喜ばしいことですが、一方で下降しているものもあります。

それが、上図の赤線で示した「精神性」です。

寿命が延びていく中で、体は確実に老いて病んでいく・・・足腰が不自由になり思ったことが出来なくなっていく・・・そしてその先には「死」が待っている。しかし、その事実を元気なうちから受け入れて、「どう生きていけばいいのか？」をしっかりと考えている人は少ない。

大半の人はその事実から目をそらして、目先のことばかり追い求めている。

「生きるとは？」よりも、「今日のご飯は何にしようか？」が大切。

「人生のビジョン」よりも、「テレビジョンの番組チェック」に関心がある(笑)

「何を意識して生きていけばいいのか？」 その心構え次第で、老醜か？老秀か？道は二つに分かれます。

会場に向かう途中、ドラッグストアに立ち寄ってティッシュを買って行きました。老醜をさらしている例を説明するためです。

ある時、お客様が悩んでいらっしゃったのでそのイライラを聞いてみると・・・

お店でレジを担当しているのですがお一人様一点限りの特売のティッシュを日に3回買いに来る年配のお客がいると。しかも夫婦で。店長はいいと言っているがどうしてもそれが許せないと。



なんとも正義感の強い太田東西のお客様ですね！決められたルールを平気で破る、しかもそれが子どもではなく高齢者。自分に直接損害はなくても、釈然としない気持ちになられたのでしょうか。チラシには「お一人様一点限り」と記してあっても、夫婦で3回出向いて6個ゲットしても、法的には何にも罰せられませんからね（笑）

お客様には以下アドバイスしました。

「きっと楽しむことのできない、寂しいご夫婦なんですよ。得たぞ！という喜びを感じたいのでしょうか。その行動の裏にある“想い”“事情”を想像してみましょう！家族全員が花粉症で、たくさんティッシュが要るのかもしれない・・・？とか（笑）」

人が何に喜び、何に幸せを実感するかは人それぞれです。

「夫婦でティッシュ2個のところ、6個ゲットできたぞ～～＼(^o^)/」という喜びを実感して幸せな気分になれるなら、それはまことに結構なことです。しかし、忘れていけないことは、人は関係性の中で生きているということ。

例えば孫に「おじいちゃんとおばあちゃんはお前のために、今日はお店に3回出向いて特売のティッシュ6個も買って来たぞ～」と言った時に、果たして孫はどう思うのか？ その祖父母の行いを、孫は尊敬できるのか？

「おまえのじいちゃんばあちゃん、特売日に3回もティッシュを買いに出かけるところ見たぞ～～」 そう友達にからかわれた孫はどう思うか・・・？

「老醜をさらす生き方」とは、つまるところ「自分の事しか考えない生き方」と言えます。常に損得勘定で、「自分さえ良ければ」という思考パターン。

「自分がこういう行いをしたら、家族に迷惑をかける。家の恥になる」

老秀な人は、自分の事だけではなく、相手の立場にもなれる人です。

図にすると、こんな感じでしょうか。

老醜をさらす 老秀をさらす

- | | |
|---------------------|----------------------|
| ・ 自分のことだけ考える | ・ 自分以外の幸せも考える |
| ・ 人の言うことを聞かない | ・ 人の言うことを聞く |
| ・ 頑固 | ・ 素直 |
| ・ 当たり前 | ・ 有り難い |
| ・ もらう | ・ あげる |
| ・ けなす | ・ ほめる |

老醜をさらすか、老秀をさらすかは、結局、自分の欲（我欲）との闘いです。高齢者の直近の闘いとしては、「車の運転」「介護施設の通所」ですね。

「もう運転は止めて免許は返納したほうがいい。事故してからでは遅いから」
そう家族に言われて、

「うるさい！パカにするな！まだまだ大丈夫だ！」となるか

「そうだね、そうするかな」となるか。

「デイサービスやショートステイを利用してほしい。私も毎日はきつい」
そう家族に言われて、

「うるさい！俺を邪魔者扱いにしやがって！」となるか

「そうだね、君もたまには一人でゆっくりしたいだろうね」となるか。

運転できなくなる。通所という老いをまざまざと実感すること。
それは嫌なことだけど、それを受け入れることが家族のためになるのなら
「私はそうする！」と自分の欲・こだわりを捨てる。
これぞ「老秀をさらす生き方」の見本です！！

「～したくない！」「～すべき！」 それは「執着」と紙一重です。
若い時にはそれも大いに結構。それで失敗して得る物もある。
しかし還暦を過ぎた頃から、少しずつ自分の執着を手放していく。

そうした生き方を心掛けることが、老秀なおじいちゃんおばあちゃんになっていく
ことであり、結果、子や孫から大切にされ、惜しまれる最期となるはず。